
神様の好奇心は人をも殺す

all

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の好奇心は人をも殺す

【Nコード】

N8263Y

【作者名】

all

【あらすじ】

神様の好奇心によって殺されたも同然の高校2年生の神坂望。責任を感じた神は望を異世界に転生させた。

そう望が四六時中していた「妄想」を現実に行ける世界に。

(タイトル募集中)

プロローグ ・ 異世界への転生 ・ (前書き)

始めまして、小説始めました。

このような執筆作業は初めてなので誤字や日本語としておかしい部分が多々あるかもしれませんが生暖かい目で流すように読んでいただければ幸いです。

プロローグ - 異世界への転生 -

彼、かみさかのぞみ神坂望はいつものように歩道を歩き交差点で止まり、信号が青になったらまた歩き出し、学校へ向かう。

朝の7時半。朝日を体に浴びながらいつものように同じ道を歩きたいつものように学校につく　はずだった。

事は学校の裏にある信号のない小さな交差点で起こった。

「それ」はまるで十字路を渡る望が見えていないかのようなスピードでこちらに突っ込んできた。

横によけては間に合わないと「判断」した望は四六時中やってたいた妄想どおりに体を動かす。

ボンネットに手を付き、体を浮かせ、背中に背負っていたカバンをフロントガラスに打ち付けるようにしてダメージを殺す。

（妄想成功！）

ガツという音が響き、ボンネットの上に体を預け　「それ」がスピードを落とした。

「それ」いきなりブレーキが効いたかのようにスピードが落ちた。慣性の法則により打ち出され大通路にでてしまう。

次の瞬間、トラクションの音が鳴り響きその中に鈍い音が混じっていた…。

これが神坂望が異世界に転生することとなった世界で最後の出来事である。

この世界の神様はあまり人間に手を出すことはなかった。

というよりもともと興味があんまりなかった。

しかし世界に常識があつて非常識があるのなら、神世界しんせかいでも非常識と呼ばれる神はいるものである。

そしてその神の世界での非常識と呼ばれる神は望の妄想を知り、面白がり、試したのだ。

人間とはどこまで「準備してある物事」に対処できるのかと。

つまり、望がいつも通学路でやっている「どうやってからいよくかわすか交通事故の対処法」という現実味のある妄想を現実に引き起こしたのだ。

運転手から望の姿が見えなかったのは神のいたずらであり、それが結果一人の人間が逝った。

神は責任を感じた。神のいたずらは一人の人間の、いやその周りの人間も含めて全員の未来を狂わせたのだ。

家族友人はもちろんのこと、クラスメイトや担任の先生等は十分に周りの人間に該当するだろう。

望は転生者に、そして神は祈った。

そしてその神は世界に手出しすることを自ら禁じそれ以降世界をのぞこうともしなかった。

その神が上位神によって「天罰」を受けたのはどうでもよく、知らなくてもいい現実。神世界

重要なのはこれにより望という転生者が生まれ、異世界で生きていくことになったということ。

そして、望は異世界で二度目の人生を生きるということである。

神がその異世界での生活を見守っていたのも彼にとっては知らない、知らなくていい現実。

ブログ ・ 異世界への転生 ・ (後書き)

転生物を多く読み流されるように書き始めてしまいました。
投稿は不定期です。

神坂望改めエリック・シルフィールド三歳（前書き）

異世界は基本、絶対基準が私の妄想であるためこの筆者が生きている世界と発展の仕方が違うのはご了承ください。

つまり、世界と異世界では思考の仕方が違うため基本となる常識が異なっています。

極端な例にするなら「人間と精霊では考え方が違う」みたいなものと同じです。

攻撃方法、つまり世界で「妄想」した魔法での戦い方と異世界の魔法での戦い方は違う。

さらに言えば食生活で食べ物を腐らせる（醗酵）ということを考え付かなくてもなんら不思議ではないということです。

結論として、この小説の異世界の人間はこちらの常識では計れないということです。

さらに言うなら登場人物は人間ではない、もしくは人間に似た動物と考えていただいても結構です。

なのでこのことを踏まえてこのページでの画面スクロールをお願いします。

それでは転生というアドバンテージを持った精神年齢高校生から始まる「妄想が日常」の神坂望の日常をお楽しみください。

神坂望改めエリック・シルフィールド三歳

転生者

転生の言葉の意味としては、前世の知識を持ったままもう一度人に生まれること。これには動物を含めて転生する説もある。

ここでは、転生者とすることで人が人に生まれることを指すことにする。

そして、転生者はそれだけでアドバンテージになることが多い。

転生先が異世界であったり、現在の世代より古ければ古いほど技術や人の精神や考え方が発展していないためである。

未来に生まれたってその未来の人たちと常識が違うのだから新しい発見が可能かもしれない。

もう一つ、転生者にとって決定的なアドバンテージがある。

なにせ生命が生まれた瞬間から自我の確立ができているのだから…。

三歳になった。

昨日誕生日だった。

特に何をするわけでもなくただ生きている。

要するに退屈なのだ。

いや少し違うか、興味をそそるものがないのだ。

いやこれも少し違う。

興味あるものに触らせてもらえないのだ。……うんしくりきた。

毎日自分の部屋から外を見るだけ。

自分の家族が住んでいるところはたぶん高級住宅地。

家に面している通路は歩いている人たちは少なく逆に馬車とかが多かった。

大通りが少し見える。人とか露天とか、沢山いて沢山あった。

人ごみは前世では嫌いだったけど今じゃ地下鉄の混み具合が懐かしい。

うん、暇だ。

成熟したとはいえない、高校三年生未熟な精神だがこれは常人だと発狂レベルですよ。

目の前に！体の中に！「魔法」や「魔力」と呼ばれる未知なる力が眠っているというのになーんで我慢せななんのか！

自分は生まれる前から意識はあった。今でも記憶はある。体の中に気味の悪い力が眠ってたのにも気づいた。

このことから自分に何らかの力があり、異世界に転生したのでは？と仮説を立てた。結果その通りだったわけだが…。

まあ、その力<魔力>おかげか生まれるまではまるで油の浮いた砂糖たっぷりサイダーのプールに入っているかのような気持ち悪さだった。

その上、体は思うように動かないしただじつとしてるだけ。

いつ出産されるかもわからない、そんな状態ですつと我慢していた私。

あれは地獄だ…。いや地獄だった…。か。

毎回地獄を思い出してどうにかこの退屈と比較して「まだましだ」と思いながらも、さすがに限界だ。

その出来事きっかけが誕生日パーティーだ。

誕生日パーティーを両親が親戚や貴族を呼び祝ってくれたのだが、これがこれがまたまた面倒だった。

なんで三歳児が貴族の面々に挨拶回りせにやなんのだ！ともう内心何度叫んだことか…。

自分の子供を何かしらの分野で認めてくれているならさっさと魔法教えてくれよ…。

周りに同年代の子供はいないし完全大人だけの世界。

どうやら貴族たちへのサプライズみたいなものだったらしい。

いや、ここはどう考えたって子供の成長を促すために同年代の子供に会わせるべきだろう…。

言葉とかさ、まだぜんぜん完璧に覚えているわけでもないし発音も舌足らずだし、会話こなさなきゃ覚えらんないよ…。

どっか違うというか抜けていてずれているそんな自分の父親ダニエル・シルフィールドと母親サラ・シルフィールド。

両方結構めんどくさい性格をしている。それでいて結構な貴族である。

が、なんと^{善人}いうか人を驚かせる事に人生かけているような^{悪人}人だ。

相手は本当に誰でもいい。騎士団長でも相手にしたことのあるのだ。時たまにある人物からサプライズの依頼が来ることもあるらしい。本業おろそかにしてない？これも本業のうち？

自分が巻き込まれなければドッキリカメラ映像を見ているようなものだった。

しかし、巻き込まれるとタチが悪いじゃすまない。

というか三歳児をサプライズの相手にするというその精神が知りた
いよ。

さらに、元いた世界世界に魔法があつて、こちらの世界異世界では魔法がある。

この違いだけでドッキリの部分がどれだけ前の世界と違うかわかって
くれると思う。

ああ、自分も早く魔法を使いたい…。

三歳になつたんだから許してくれないだろうか？

あ、女から男になりました。

あーもう月ものとか考えなくていいから楽！
もう下のことなんて特に気にしなくなりましたとも！

ええ！気にしなくなりましたとも！
もう無意識でいいよ。

神坂望改めエリック・シルフィールド三歳（後書き）

名前が思いつかない。

名前だけに15分かかってしまいました…難しい。

精神は肉体の影響を受けると某吸血鬼Kさんが言っていたのを思い出しました。

言動は肉体に影響されていきます。でもやっぱり根っこの部分は女性で。

いけたらいいなあ。

台詞の掛け合いとかもぶつつけ本番。

読めるようなもの書けたらいいなあ。

妄想とかはもうちょっと後で。

魔法、魔力の勉強法？（前書き）

サブタイトルも難しい。

魔法、魔力の勉強法？

基本と応用

物事の「基本」というのは土台部分であり、その土台を固めていく必要がある。

建築物で例にするなら地中に埋めた基礎部分だろう。

応用は基本の上に積み上げる「モノ」であり、建築物の見た目部分にあたる。

なら建造物の間取り等の中身は？

経験である。

「親父！おれにまほうをおしえてくれ！」

「・・・あー、魔力の使い方なら教えてやろう」

「それってなにかちがいはあるの？」

「さすがにまだわからんよな」

わかってますけどね。

うん三歳なんだからこれぐらいがたぶんベスト。

違いが分かったらさすがにおかしいだろうし。

自分は両親が自分を転生者ということを知らないままでいてほしい。

特に理由はないし本当の息子として生まれてくる魂を押しつけた自分^{生者}に罪悪感を感じたことはないといったら嘘になるけど面倒事なんて極力避けたい。

破天荒な両親のことだからたぶんないとは思っけど放りだされる可能性が無い訳ではないし。

ん？日本語が微妙におかしい・・・か？

日本語の話し相手がいないからいつも自問自答しかしていない。

独り言が最近寂しくなってきた。

ま、閑話休題
それはそれとして

魔法に興味を持ち出すのは三歳からが多いらしい。

好奇心が高い時期だからだろうか。

いやーどうでもいいや！とりあえずテンション上がってキター！

「ん、よし。それじゃ始めよう。といってもどうしたもんか。」

「え？」

「…まあいいか。とりあえず俺の魔力を流し込んでみるからそれを外にはじき出してみろ」

「そとにだせばいいの？わかった。」

そういうと親父は手をつかんできて

いきなり寒気がしてきた。

自分が別の何か、自分じゃないものに侵されていくようなそんな感覚。

自分が自分じゃなくなる　いやだ！

その時、バチン！と空気が震えて親父が数歩よろけた。

親父が青い顔でこっち向いてる。

あーやばいかも？なんかやっちゃった？

「…よ、よし。基本ができてるなすごいぞ。」

いや、今の基本が出来てたって顔じゃなかったよ？

今は仮面ボーカフェイスかぶってるのか平常に見えるけどあの顔は…おかしいよ。

「うん。ちょっと父さんは仕事があるからなまた後でな」

呼び止めるまもなく部屋を出て行った。

うん、逃げられた。

いや、逃げてくれてよかったかも。考えをちょっと纏めよう。

魔力の操作方法の基本は出来ている。終了。…じゃなくて

あの驚きっぷりから見ると基本以上のことが出来ているってこと。

魔力量が多かったのか魔力の使い方が上手だったとかそんなところ
操作

前者はどうやって調べればいいのかわからん。自分しか基準がない
からなあ。

後者は後者でまたわからん。どれだけ滑らかに動かせるとかそんな
感じなのかな？

毎日やること本当になくて魔力に慣れることばっかりやってたから
油の浮いたソーダ
それが原因かな？

あとは子供ながらの成長力。高校二年生大人の精神と子供の本能力なんじゃそりゃで成長が著
しいとかか？

まあなんにしても、魔法に対して転生者としてのアドバンテージが
出たところか。

転生者はやっぱりチートに入る域にあると思うんだ。うん。

三年間魔法の制御だけしかやってないんだから当然っちゃ当然なの
かも。

ほかにもこの世界、技術発展してないしお金に困るとは無いと思うけど、技術見せ付けて必要以上に目立つなんてこと、したくないなあ。

絶対妄想力豊かなどこそ馬鹿共に改良されてしまおうと思う。

んで戦争と。自分の発想が戦争に使われるなんてそんな後味悪いことしたくないなあ。

自衛のために使っちゃいますけどね。

んじゃ親父どのの反応を待つとしますか。

…いまさら不安になってきちゃった。

気づ^{転生}くわけないと思うんだけどやっぱり少し不安になるなあ。

魔法、魔力の勉強法？（後書き）

主人公の特別は基本、あの世界での妄想とこの異世界に転生したことです。

もちろん知識もありますが。

基本の上には応用もありますけどね？

投稿時間は何時にしたらいいんでしょうか。

とりあえずまた19時におきました。

投稿は一週間に一回出来れば良いほうだと思います。
それでは次話で

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8263y/>

神様の好奇心は人をも殺す

2011年11月27日19時56分発行